

向陽介護便り

「鉄腕アトム」と「火の鳥」のメッセージ

JR高田馬場駅の改札を出た先の道路の反対側、山手線と西武新宿線のガード壁面にマンガが描かれています。「鉄腕アトム」「ブラックジャック」「ジャングル大帝レオ」「火の鳥」など数多くのマンガを送り出した手塚治虫氏の作品が壁画となっています。

「鉄腕アトム」は、手塚治虫氏の代表作ですが、ほとんどの人はこの作品を通し『未来は科学技術の進歩によって人々に幸福をもたらす』という考えを持ちます。が、手塚氏はこの考え方を否定しています。『ロボット技術をはじめとする科学技術が、いかに人間性をマイナスに導くか、暴走する技術がいかに社会に矛盾を引き起こすか』手塚氏は、これが「鉄腕アトム」の作品を通して伝えたかったテーマだと述べています。(手塚治虫



著:”ぼくのマンガ人生”) まさに、3・11の大震災を引き金として起きた福島原発事故は、手塚氏が危惧していた事態に陥っているように感じるの私だけでしょうか。人は原子力の技術を手に入れ、あたかも神(創造主)にでもなったかのような錯覚を持ってしまったのでしょうか。確かに科学技術の進歩は、私たちの生活を便利に快適にしてくれています。しかし、便利さや快適さと引き換えに様々なモノを同時に失っていくことを、しっかり認識することも大事な事ではないでしょうか。

技術に対する過信が張りぼての安全神話を創り出し、根拠のない驕りを生み、事前の警告や問題点の指摘も特定企業の利益の前に無視された結果、原発事故は、起こりえてして起こった「人災」だったと思います。原子力をはじめ科学技術がもたらす功罪をしっかりと見極め、ただ単にそれを利用するという姿勢では無く、きちんと向かい合い付き合っていくという姿勢が必要なのではと考えます。

又、手塚氏は、すべてのマンガに脈々と流れているテーマは、「生命の尊厳」であるとも述べています。戦時中や医学生の時の体験から「命」というテーマを真剣に考えることになり、その集大成とも言うべき作品が『火の鳥』ではないかと思われま。不死鳥をイメージした火の鳥は人智を超えた存在で、100年に一度自らを火で焼いて再生する事で永遠に生き続ける、鳥ではなく生命の象徴として描かれ、その生血を飲めば永遠の命を得ることが出来るとされています。この鳥に纏わって登場する様々な人間が一人残らず、命に執着し、永遠の生命力が欲しい・若返りたいといったことに執着し、苦しみます。そんな人間に『火の鳥』は、こう

『お前たちはただの人間なのだ。いずれは死ぬ。だから死ぬまでの生きがいみたいなものをよく体験しておけよ!』

福島原発事故の早期収束を願いつつ、鉄腕アトムや火の鳥のメッセージを心の中で反芻して行こうと思います。

